

学校だより / 徳地の風

No10
31. 3. 18
山口市立
徳地中学校

いい卒業証書授与式であったと思います。1・2年生の歌声の大きさに感動しました。今後も自己表現がしっかりできる学校であってほしいです。

さて、3年生がいなくなって幾分さびしい校内ですが、日に日に春の陽気や生命の躍動が感じられるようになり、ワクワクする気持ちも抑えきれないこの頃ですね。在校生にとっては少し気がゆるみがちなの時期ではありますが、さにあらずです。

部活動では**春休みのトレーニング次第で4月以降の試合結果がほぼ決まりますし**、学習面でも**より早く目標を決めた人は準備もより早く始めるので、4月以降の授業態度やモチベーションがまったく違ってきます**。これらの差は、実は非常に大きいのです。尻を叩くつもりではありませんが、知っておいてほしいですね。

◎ 詩「人間のうた」 ◎

卒業証書授与式の校長式辞で卒業生へのはなむけとした、詩の全文を紹介します。力強く、厳しく、そして限りない優しさにあふれた詩だと思いませんか？

人間のうた 深澤義晃

「うそをつくな」と、おれは言わない。
大事なときに、うそをつかなければいいのだから。
大事なときとは、自分を不幸にするかどうかというときだ。

「くそまじめにやれ」と、おれは言わない。
くそまじめにやって損をすることが多いからだ。
だけど、やらなくてはならないときは、
どんなに辛くても、苦しくても、やり抜かなければならない。
それは、自分をだめにするかどうかというときだ。

「誰とでも仲良くしろ」と、おれは言わない。
本当の仲間と、仲良くできればいいのだから。本当の仲間とは、
手を握り合い、肩を叩き合いながら、自慢話を仕合わせる相手のことだ。

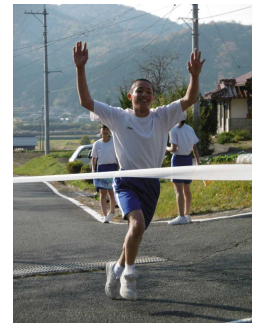
「まちがいや失敗をするな」と、おれは言わない。
大事なことを間違えなければいいのだから。
大事なことで失敗しなければいいのだから。
間違いや失敗を恐れてはならない。おれが言う大事なことは、
二度と立ち上がれなくなるかどうかということだ。



意思と体力で支えきれなくなるかどうかというときだ。
他の間違いや失敗は、星の数ほどあったにしても、少しも怖がることはない。
間違いや失敗から正しく学んでいく限り、自分を高めていけるからだ。
間違いや失敗を一つもしない人間は、
結局、何もできなかったやつなのだ。口先だけで、何もできなかったやつなのだ。

「親に心配かけるな」と、おれは言わない。
心と体が丈夫なやつほど、何かをしなければいけないやつなのだ。
そうである限り、
何か、どこかで、親に心配かけるに違いないからだ。
親を食らいつくして、思いっきり勇ましく生きてゆけ。

幸せは、祈って待っているものじゃない。
戦いにとっていくものだ。
自分の弱さや醜さと戦いながら、目的と目標をしっかり決めて、
それに向かって突進していくときに得られるものだ。
それが自分を大切にすることだ。
自分を大切にできないでいて、どうして人を大切にできようか。
そのことが、そうして生きていくことが、どれほど苦しく、悲しく、切なくても、
自分の意思で選んだ道をもう引き返さないぞと覚悟して、歩み続けていくなれば、
悲しみも、苦しきも、怒りも、人間の誇りにかえていけるのだ。



雨が降っても、曇っていても、 見ろ、雲の上には、太陽がある！



私のクラス自慢（どうだスゴイだろ～!!）

1年1組の自慢です。

1年1組の自慢は、元気がいいところです。
仲間も良く、一緒にいて楽しいです。
笑顔の絶えないクラスですが、けじめのつかない時があるので、そこを改善して行って、もっといいクラスにしたいです。

1年2組の自慢です。

私のクラスの自慢は、教室にいつも笑顔があふれているところです。
仲が良く、どんな時でも笑い合えるこのクラスは、とても楽しいと思います。
この自慢を武器に、より良いクラスにしていきたいです。

今回をもって今年度の『学校だより 徳地の風』を終了します。
来年度もよろしくお祈りします。